

## 江ノ島水族館 『イルカのアニマルセラピーの世界』

ヒアリング実施日 2000. 11. 11

### プログラム概要

実物大模型や身体の一部レプリカ（手ざわり等を忠実に再現）解説板を用いて、鯨類（特にイルカ類）について解説、イルカへの接し方の説明の後、イルカ飼育プール内の特設ステージ（水深 50cm）に入りバンドウイルカとふれ合い体験をする。

期間・・・・・・・・・・非定期的に実施。1回1時間半

参加者数・・・・・・・・小学生以上。12名以内

参加方法・・・・・・・・事前申し込み

実施者人数・・飼育係員または獣医師 5名

### プログラム進行

#### 1 鯨類基礎知識解説

特設ステージに隣接するレクチャールームにて、鯨類、特にイルカに関するレクチャー。実物標本（ヒゲクジラのヒゲやハクジラの歯、骨等）や、触れた感触も実物に似ている各部の実物大模型、各種パネル等を使用し、分類や形態、生態に関する解説を行う。解説者は1名。



#### 2 イルカ対処法解説

イルカへの触れ方、触れてはいけない部位、その他注意点等を説明。

#### 3 準備

胴付長ぐつ、および救命胴衣の着用、手の消毒

#### 4 イルカふれ合い体験

水深 50cm に設営された特設ステージに入り、イルカを呼び静止させ



て触れる。3頭のイルカに1頭あたり1人の実施者が付き、参加者も1頭に対して一人が入水し実施者の解説を受けながらイルカに触れる。解説は主に細部の形態や機能についてだが、実施者が参加者に対して1対1で対応するため、参加者の興味に応じて臨機応変な対応が可能である。



## ポイント

**知識のみでなく感性を大切に** 鯨類に関する知識の解説のみでなく、間近で観察し触れることで人間との共通点を認識したり、血の通った動物であることを実感することが出来る。評価は難しいが、ある程度の癒しの効果も期待できる。



**活性化効果は大きい** 参加人数が限られてしまうが、特設ステージが一般観覧者通路に面しているため、活性化効果は期待できる。プログラムに参加していない来館者も、参加者とイルカと触れ合っている場面を見ているだけでも楽しむことができ、また館内で様々な活動が行われている印象を与える。

**イルカの負担を考慮する必要あり** 現状では試行段階であるが、定期的な実施可能になれば使用するイルカの負担を考え、触れ合いの際のケアや1頭あたりの実施時間に制限を設ける等の配慮が必要である。

**労働力と困難度は高い** 実施者はイルカの頭数 + 1名は最低限必要であり、参加者人数に対する労働力はかなり大きいといえる。しかしその分、参加者に対してこまやかな対応ができるため、参加者の満足度は高いであろう。イルカのトレーニングは通常のハズバンダリートレーニングの範囲内で十分対応可能であり導入における困難はないが、参加者に対する注意事項の徹底や、危険管理の面での困難度は高い。

**参加費徴収が必要** 特設ステージやレクチャールームの建設、模型の制作にかなりの経費が必要となる。現在は無料で実施しているが、サービスの質の維持のためにも、1000

円程度の参加費を徴収することは可能。

## **工夫と発展**

**セラピストの導入** 実施者は動物の専門家ではあるが人間の専門家ではない。「セラピー」として発展させるためには専門のセラピストとの協力が不可欠である。

**設備の応用** 江ノ島水族館では当プログラムのための特設ステージおよびレクチャールームを整備したが、プログラムの内容を多少変更することで特別の設備がなくとも導入することができる。アンケート調査では、ダイビングスーツや水着着用によるイルカプール内でのふれあい体験や、陸上からの触れ合い等の報告もあり、それらを参考とし現行の設備の応用で実施できる可能性もある。

**対象の拡大** 年齢層ごとに募集し、各年齢層に応じてプログラムにバリエーションを持たせることも出来る。また、専門のセラピストとの協力により精神疾患を持つ患者（自閉症児等）を対象とした集中的なプログラムに発展させることも考えられる。